

SSKU **2017年度**
お元気ですか?
イリアンソス
です。



PAGE

03 特集 私たちの想いを届ける

PAGE

02 理事長の散歩道

PAGE

06 “イロイロ”イリアンソス(活動報告)

PAGE

07 がんばれ！イリアンソス

理事長の散歩道
社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

憲法25条を守れ

5月18日(木) 東京日比谷野外音楽堂で「社会保障・社会福祉は国の責任で！憲法25条を守る5・18共同集会」が行なわれ、全国から3,500人の方々が集まりました。昨年行われた「5・12共同集会」から1年が経ちましたが、国民の間の「格差」の広がり、「貧困」の深化はすさまじい状況であることが報告されました。今や日本の貧困は、特定の世代や男女に限られた問題ではなくなっています。

医療分野では、高額で支払えない保険料、患者の自己負担の増加、保険で給付される医療の制限など、大幅に後退しています。介護では、軽度者切り・排除、さらなる負担増となってきました。年金では、年金支給額の減額、支給開始年齢のさらなる引き上げが実施されています。生活保護では、3年間で総額670億円の生活扶助基準が引き下げられました。そして、申請手続きの厳格化などの法の「改悪」に続き、住宅扶助や加算の引き下げなどの改悪が進められています。障害者分野では、基本合意や骨格提言の実現は程遠く、今、審議中の精神保健福祉法改正法案は、相模原事件を精神障害と結びつけたもので、

障害者の尊厳ある暮らしを保障するものではありません。2012年に成立した「社会保障制度改革推進法」等の法律は、憲法第25条の理念に反し、その財源を消費税に求め、国の責任を大きく後退させました。『我が事・丸ごと』地域共生社会実現は、地域住民の「助け合い」という美名のもとに、大幅な公費負担の削減を企てています。まさに、憲法第25条の空洞化が行われているのです。

若い人からパワーをもらおう

5月24日には、わたしたちが加盟している「きょうされん(旧称・共同作業所全国連絡会)」の総会が全国から200名を超える参加者で行われました。翌日は、みなさんに協力していただいた全国で100万筆以上の署名用紙をきょうされんに集う利用者や職員で手分けして、紹介議員になってもらうためにすべての国会議員をまわりました。

今回、わたしは静岡の加盟作業所の職員二人と静岡出身の国会議員を回りました。この二人は同じ静岡県の方たちですが、藤枝と浜松の方なので今回初めて会ったそうです。そして、この国会請願行動も初めての取り組みだそうです。わたしたちは、参議院議員、衆議院議員と回りましたが、国会議員に会えたのは20名中3人くらいでした。ほとんどは秘書対応でした。加盟作業所の職員二人は、

日々の活動や障害福祉の仕事の大切さ、障害のある人たちの暮らしの大変さなどを訴えて請願書の紹介議員となってくれよう説明してくれました。はじめてではありましたが、頑張っって一日議員会館を回りました。

その中で、浜松からきた「さん」と話しているうちに、以前は利用者として作業所に通っていたことが分かりました。自閉症として療育手帳(東京都では愛の手帳)も持っていました。その彼が、いろんな人との出会いの中でアドバイスをもらい自分にあつた薬に変えることで自閉症の症状も落ち着き、今年の4月から支援する側でがんばっているそうです。その彼は、自分が利用者であった側の経験から、支援者側の職員の方について語ってくれました。「『利用者の方が暴れている』というけれど、そうさせているのは職員じゃないんですか？」と、まだ2ヶ月しか働いていないというのに、職員の動きが気になったそうです。上司の方にその想いを伝えると、職員会議で発言してもいいよといってくれたといつて、自分の想いを伝えたそうです。年齢も25歳だそうです。すごいなあと感じました。きょうされんの集まりでは、いろんな方との出会いがあり、いつも勉強させていただいています。今回も若い方に出会えて、逆に今の仕事の励みにもなりました。こうした出会いをいつまでも大切にしたいですね。

特集



～私たちの想いを届ける～

今回の特集は、「私たちの想いを届ける」です。日々の仕事やレクリエーションと共に、私たちの日々の活動内容や想いや願いを社会に届けることも重要な活動の一つです。

国の政策や制度に大きく影響されてしまう現状で、私たちの理念や大切にしている活動を知ってもらうことは、私たちの活動も守られていくことにつながります。

一方的に想いだけを伝えるのではなく、何故、運動が必要なのか多くの人と共有していき、理解されながら進めていく事が大切なのです。

今回は、署名活動を通して、地域に私たちの想いを伝えている様子や国会に行つて、直接想いを伝える様子などを紹介します。

特別な要求をしているのではなく、誰もが安心して生きていける社会になるために、動き続けていきます。

そんな、イリアンソスの取り組みを紹介します。



(上) 新宿駅
(下) 請願行動

第39回 国会請願署名

きょうされん(旧全国共同作業所連絡会)が主催している全国規模の署名は今年で39回を迎えます。

この署名活動をする中で、障害福祉の現状や障害のある人々の生活実態を発信していきましました。誰もが安心して暮らせる社会を目指して、続けてきたのがこの署名運動です。



▲東久留米駅前で署名活動

がんばるDAY

イリアンソスでは、2月・3月の毎週木曜日に東久留米駅前で署名活動をおこないました。

活動センターかなえ・なかまの家・のぞみの家の利用者と職員が一丸となつて、署名を集めました。請願内容、私たちの願いなどをマイクで訴えました。

初めは恥ずかしくなったり、通行人に声を掛けられなかつたりしていた利用者も、回数を重ねるにつれて慣れてきて、積極的に声を掛けられるようになってきました。毎週おこなうことで「頑張ってください」「先週もやっていましたね」「前に

署名しましたよ」などなど、励ましや温かい声も多くなってきました。みんなので取り組むことで団結力も生まれて大きな力となっていると実感できました。

いざ！請願行動へ

がんばるDAYなどで集まった署名を集約して5月25日に国会議員のもとへと届けに行きました。きょうされん加盟の事業所が全国から集まり、各地域で集められた署名を束にして、地元の議員に渡しに行きます。

当日は、のぞみの家から多田鉄太郎さんと松木裕一郎さんが参加しました。それぞれ、自分の思いやみんなの願いを紙に書いて、議員室の前で読みました。多田さん「福祉を頑張ってください！」松木さん「僕は毎日、仕事がんばっています」

残念ながら、ほとんどが議員秘書の方の対応でしたが一生懸命に伝えていました。当事者が直接訴える力は大きく、真剣に耳を傾けてくれました。一人ひとりの思いが結集された一日となりました。

緊急集会

署名活動と共に、運動への参加もおこなっています。

5月18日に日比谷公園の野外音楽堂で「憲法25条を守る5・18共同集会」が行なわれました。きょうさんも集会の趣旨に賛同し、実行委員会に名を連ねています。

『国は、市民のニーズに応えるかのように装いながら国の責任を自治体・地域に丸投げしようとしています。憲法25条



▲日比谷公園では、多くの人の想いが一つになりました。

で規定されている国民の生存権を保障する国の責任を投げ捨て、「自己責任」と「営利化」を基本にした「社会保障解体」では国民のいのち・くらしは守れません。』(同大会呼びかけ文より)

当日は、会場付近が突然の雨に見舞われるなどしましたが、全国から3500人もの人が集まりました。高齢者・子ども・障害・生活困窮者など多くの分野の関係者が集まったそうです。各分野からの声を聞いたり、『守れ25条!』と書かれたプラカードを会場全員が掲げコールしたり、会場が一体となりアピールしていました。

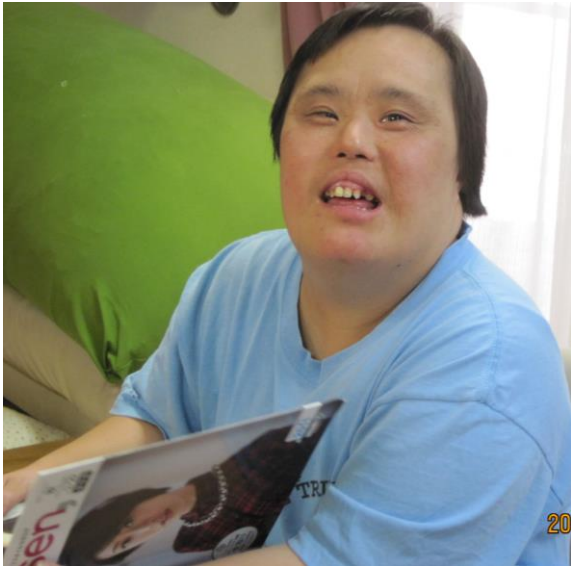
イリアンソスからはなかまの家・活動センターかなえ・家族会から計14名が参加しました。

東久留米駅から電車に乗り日比谷公園に向かいました。途中の池袋で昼食へ。集会などに参加する時の皆さんの楽しみの一つです。たくさんあるお店の中から、みんなで相談しながらお店を決めます。今回は洋食屋さんを選びました。それぞれハンバーガーやスパゲティなど好きな物を選び、「うまい!」とこの日一番の笑顔でした。



▲みんなで楽しく参加する事も大切です。

会場にはちょうど雨が止んだ頃に到着しました。雨が降った後にもかかわらず、会場にはたくさんの方がいて、みんなで「守れ! 25条」とシュプレヒコールをあげていました。なかまの中には積極的に前の席に座ってカードを掲げる方もおり、みなさんイリアンソスの代表として、しっかりとアピールしてきま



▲大好きな雑誌を手にリラックス

生活寮から
2017年2月、生活寮うみに新しく石田光子さんが入所されました。お母さんが亡くなって以来、にじのショートを利用していました。そんな中の入所で初日は緊張した面持ちでしたが、今では「ただいま」と元気に帰寮し「今日は寮？」と毎日確認するほどです。石田さんはまだ寮でのイベント行事に参加されていませんが、今後一緒に楽しんでいけたらと思います。

イロイロ イベント (活動報告)

かなえ&なかま「手作りの販売会」
3月15〜17日に「スーパーマルフジ」にて、活動センターかなえ&なかまの家で販売会を行い沢山の方々にお越しいただきました。
販売会は、地域の方々どんな仕事をしているのかを知って頂ける場でもあります。売上げは、利用者さんのボーナスにつながります。利用者の皆さんも自分で作った物が売れて嬉しかったと話してくれました。「もっと難しいデザインに挑戦したい！自分もチャレンジしたい！」と意欲をみせています。



▲次回開催は今年の秋です。



▲野島さん

▲菊地さん

▲吉野さん

法人交流会
『新入所・還暦を祝う会』では、昨年4月から活動センターかなえに入られた菊地真歩さんと吉野岬さん。また、還暦を迎えられたのぞみの家の野島信子さんのお祝いをしました。
午後は『交流会』では、前半は〇×クイズ、後半は皆さんがよく知っている曲の動画を流して歌ったり踊ったりしました。

連載 がんばれ イリアンソス!

『一人ひとりを大切にすること』

看護師 小池 紀子さん

「かなえ」と「なかま」に交互に隔週の火曜日に勤務しています。限られた時間ですが、利用者さんと接する機会を重ねる中で気づかされ、学ぶことがたくさんあります。

立ち位置で違う見え方と感じ方

利用者さんの外活動の付き添いに時々加えていただきます。一つの例ですが、見慣れたスーパーが自分で行くときとは違った場所のように感じられます。駐車スペース、トイレ、車いすの用意等、バリアフリーへの配慮があります。しかし、利用者さんと共に行動をすると、なぜかもう少しだけスペースを取れなかったのかと感じる箇所がこんなにあるのか、商品棚の配置は全く配慮がないのか、店内にちよつと休めるイスはないのか、出入口近くに従業員の配置は考えられないのか等、経済効率のためと察しますが、少しだけすぐにできそうなこともあるのではと思います。今まであまり考えもしなかったことを店に行くたびに感じるようになっていきます。

一人ひとりを大切にすることは

「かなえ」も「なかま」も、職員の朝の会で利用者さん一人ひとりの報告があり、ご家庭からの連絡や申し送り等についての共有がはかられます。利用者さんは送迎車で到着された後、検温や健康観察をしながら、ゆっくり過ごします。この結果やご家庭や寮からの連絡が職員に伝えられ、この日必要な配慮等の共通理解がはかられます。顔色、表情、声のトーン、食欲、排泄、体の動き、歩くときの様子等に担当の職員は常に注目しています。職員間ではそうした情報の共有をその時々、一日に何度もしながら、ご本人の意思や思いを大切にしながら、安心して過ごせるよう努めています。

学校教育でこそ気づきのための体験学習を障害に限らず、知らないために戸惑ったり、偏見を持つたりすることは、大人は経験から気づいているはずですが、少し考えてみれば、障害は全ての人のとって無関係ではないことに気づくでしょう。病気、事故、加齢等によって障

害を負う可能性は、誰もが避けがたいことです。

周囲の人には気づかれない障害で苦しんでいる方の話を新聞で読んだことがあります。

他人には知られないけれども電車で席を譲られることも、いたわりを受けることもなく本当は辛いという話もしました。様々な障害があることを知る機会もあります。

偏見や差別は人間が生み出すものですから、正義感に満ちた幼い子どもから、身近に体験で知ることを大切にしたいと思います。小学生になれば話しを聞き、言葉で理解する範囲は広がります。障害者福祉の現場での体験や職員の話聞いて学ぶ学習が必修になってほしいと願っています。学校教育の中で、この様な学習が年齢に応じて重ねられていくことは安心して生きられる社会を作ることにつながる価値ある学びではないでしょうか。身近な地域の学校と連携してイリアンソスの出前講座が始まり、広がっていくことが願いです。

法人行事

『イリアンソス夏祭り』

- ◎日程：7月29日(土)
- ◎時間：17時～20時
- ◎場所：のぞみの家(隣の公園)

ご寄付をいただきました(3月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

ありがとうございます。

職員をつぶやき：

今年の3月に第4子が誕生しました。嬉しい事ですが、心配なこともあります。それは、今話題にもなっている「保活(保育園)問題。共働き家庭にとっては死活問題です。待機児童と話題にはなりますが、あまり改善されないようです。福祉を後回しにしてみんなが活躍できる社会ができるのだろうか…。子どもたちが成長した時にはより暮らしやすい社会になっていく事を願うばかりです。

活動センターかなえ 中西 亮太

表紙の写真／

皆さんの笑顔たくさん！！一人ひとりが大切にされる社会の実現へ

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・中西亮太
疋田史江・津田雪枝・秋元沙織
※ホームページからはカラーで
ご覧いただけます

イリアンソス



定価
一〇〇

社会福祉法人イリアンソス

- のぞみの家
東久留米市下里 2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp
- 活動センターかなえ
東久留米市南沢 2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp
- なかまの家
東久留米市中央町 2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp
- 生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里 4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp
- 生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里 5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp
- このみ
東久留米市幸町 3-8-23
042-473-9667